

第14回 耳川水系総合土砂管理に関する評価・改善委員会

問題・課題総合評価シート及び「耳川通信簿」

目 次	
○問題・課題評価シート【山地領域】 .....	1
○問題・課題評価シート【ダム領域】 .....	2
○問題・課題評価シート【河道領域】 .....	3
○問題・課題評価シート【河口・海岸領域】 .....	4
○各領域の総合評価（令和6年度） .....	5
○耳川流域全体の総合評価（令和6年度） .....	6
○「耳川通信簿」耳川流域全体（令和6年度） .....	7

令和7年7月28日

問題・課題評価シート【山地領域】

領域	総合土砂管理上の 問題・課題	モニタリング項目	説明 頁	主従 関係	ワーキング時点での事務局案				ワーキンググループの評価				
					評価結果の概要	個別評価		総合 評価	事務局案に対する意見等	個別評価※1		評価 ※2	
						方向性	状態			方向性	状態		
山地 領域	(1)崩壊地からの土砂流出 状況	11.裸地面積	3	主	至近3年間の変動幅の範囲内にあることから「維持傾向」と評価される。状態は、基準年の変動幅の範囲内にあることから「普通状態」と評価される。	B	b	△	【山地領域目標】 森林保全や治山・砂防の 推進により、土砂・流木の 流出制御を目指す。   				

着色凡例	
	：治水面（防災面）
	：利水面（水利用面）
	：環境面

個別評価凡例	
【方向性】	A：改善傾向，B：維持傾向，C：悪化傾向
【状態】	a：良い状態，b：普通状態，c：悪い状態

評価凡例	
○	：問題なく良いレベル
△	：普通のレベル
×	：問題があり悪いレベル

- ※1 ワーキングでの個別評価を、評価・改善委員会での事務局案とする。
- ※2 ワーキングでの問題・課題に対する評価を、評価・改善委員会での事務局案とする。

その他意見：H17年以降釣れなくなっていたアジ、イシダイ等が釣れるようになった。

問題・課題評価シート【ダム領域】

領 域	総合土砂管理上の 問題・課題	モニタリング項目	説 明 頁	主 従 関 係	ワーキング時点での事務局案				ワーキンググループの評価					
					評価結果の概要	個別評価			総合 評価	事務局案に対する意見等	個別評価※1			評価 ※2
						方向性	状態				方向性	状態		
ダ ム 領 域	(9)貯水池末端部(貯水池への河川流入部)治水安全度	12.ダム堆砂	2		ダム貯水池末端部(貯水池への河川流入部)の河床高は、至近3年間と比較すると、「悪化傾向」と評価される。状態は、背水の影響はみられないことから、「普通状態」と評価される。	C	b	×	【ダム領域目標】 土砂移動の連続性を回復させ、ダムの適切な運用・管理により川の機能の再生を目指す。  ダム領域評価:『△』  【評価コメント】 令和6年度は、ダム堆砂(貯水池末端部)、水質、漁獲量(内水面)に関して「悪化傾向」、また、ダム堆砂(利水容量)、水質、ヒアリング(漁獲量(内水面)、河床材料)に関して「悪い状態」の評価があったが、その他の項目は概ね「普通状態」が維持されていることから、ダム領域は総合的に「△」と評価される。	背水の影響によらず、各ダム末端や河岸に土砂がたまった状態がある。 →委員から頂いた意見を基に一部評価を修正(状態評価:b→c)	C	c	×	
	(10)利水容量	12.ダム堆砂	13		利水容量内の堆砂は、至近3年間と比較すると、「維持傾向」と評価される。基準年と比較すると、「悪い状態」と評価される。	B	c	×		事務局案で了承する。	B	c	×	
	(11)取水機能の維持	12.ダム堆砂	20		取水口付近の河床高は、至近3年間と比較すると、「維持傾向」と評価される。基準年と比較すると、「良い状態」と評価される。	B	a	○		事務局案で了承する。	B	a	○	
	(12)放流設備機能の維持	27.流木処理実績	26		基準年と比較すると「良い状態」と評価される。	－	a	○		事務局案で了承する。	－	a	○	
		19.写真観測(ダム流木到達状況)	28		上椎葉ダム、岩屋戸ダム、塚原ダム、大内原ダム、諸塚ダムにおいて流木が残留していることが確認された。	－	－			事務局案で了承する。	－	－		
	(13)利水設備機能の維持	27.流木処理実績	26		基準年と比較すると「良い状態」と評価される。	－	a	○		事務局案で了承する。 ダム湖の流木は悪い影響ばかりではなく、コイ・フナなどの産卵場として利用される(7月頃)。	－	a	○	
		19.写真観測(ダム流木到達状況)	28		上椎葉ダム、岩屋戸ダム、塚原ダム、大内原ダム、諸塚ダムにおいて流木が残留していることが確認された。	－	－			事務局案で了承する。	－	－		
	(14)生物生息生育環境の変化	1.水質	33		椎原橋において至近3年間を上回る濁水長期化日数を示していることから「悪化傾向」と評価される。出水時の濁水長期化の目安の期間(2～3週間:10度以下)の範囲を上回っていることから、濁水長期化の状態は「悪い状態」と評価される。	C	c	×		事務局案で了承する。 発電取水以外の場所でも、濁水の影響が確認できる。	C	c	×	
		6.魚類	40		全体の種数・個体数の大きな変化がみられないことから、「維持傾向」と評価される。魚類の状態は、指標種のアユ・カマツカの個体数割合から「普通状態」と評価される。	B	b			事務局案で了承する。 アユやカワムツは放流による影響が大きい。	B	b		
		7.底生動物	—		令和3年度から調査取りやめとなったことから評価対象外	－	－			事務局案で了承する。	－	－		
		8.付着藻類	—		令和3年度から調査取りやめとなったことから評価対象外	－	－			事務局案で了承する。	－	－		
		30.ヒアリング	43		ヒアリングは評価対象外(点数化しない)	－	－			事務局案で了承する。	－	－		
		6.漁獲量(内水面)	44		漁獲量の方向性は、至近3年間と比較すると「悪化傾向」と評価される。漁獲量の状態は、漁協ヒアリングの結果から総合的に「悪い状態」と評価される。	C	c			事務局案で了承する。 川釣りする人が少ない(県外の人が釣りに来る)放流したアユは濁水の影響がある。	C	c		
	(15)生物生息空間の連続性	2.河床材料	47		河床材料の粒度分布は、大きな変化が見られないことから、方向性は「維持傾向」と評価される。漁協ヒアリング結果から総合的に「悪い状態」と評価される。	B	c	×		事務局案で了承する。	B	c	×	
		6.魚類	49		全体の種数・個体数の大きな変化がみられないことから、「維持傾向」と評価される。魚類の状態は、指標種のアユ・カマツカの個体数割合から「普通状態」と評価される。	B	b			事務局案で了承する。 養殖の魚類は弱い。	B	b		
		7.底生動物	—		令和3年度から調査取りやめとなったことから評価対象外	－	－			事務局案で了承する。	－	－		

着色凡例	
	: 治水面（防災面）
	: 利水面（水利用面）
	: 環境面

個別評価凡例	
【方向性】	A：改善傾向、B：維持傾向、C：悪化傾向
【状態】	a：良い状態、b：普通状態、c：悪い状態

評価凡例	
○	: 問題なく良いレベル
△	: 普通のレベル
×	: 問題があり悪いレベル

※1 ワーキングでの個別評価を、評価・改善委員会での事務局案とする。  
※2 ワーキングでの問題・課題に対する評価を、評価・改善委員会での事務局案とする。

問題・課題評価シート【河道領域】

領域	総合土砂管理上の 問題・課題	モニタリング項目	説明 員	主従 関係	ワーキング時点での事務局案			ワーキンググループの評価						
					評価結果の概要	個別評価		総合 評価	事務局案に対する意見等			個別評価※1		評価 ※2
						方向性	状態		方向性	状態				
河道領域	(16)付着藻類の変化	8.付着藻類	2		付着藻類(出水時)は、細胞数の増加はほとんど見られなかったが、出現種数及びクロロフィルaは至近3年間の調査結果の変動と同程度であることから、「維持傾向」と評価される。付着藻類に関する漁協ヒアリングの結果、半数以上の漁協から「悪い状態」の回答を得たことから「悪い状態」と評価される。	B	c	×	事務局案で了承する。 同じ月の調査が良いのでは？出水の後なのでバラつきが出る。	B	c	×		
		30.ヒアリング	5		ヒアリングは評価対象外(点数化しない)	－	－		事務局案で了承する。	－	－			
	(17)河川景観の変化	17.写真観測(自然景観)	7		自然景観は前年度と比較して、特に大きな変化はみられないことから「維持傾向」と評価される。 河川特性評価シートによると、「普通状態」と評価される。	B	b	△	事務局案で了承する。 (坪谷川)支流は対象とならないのでは？築堤がない場所は、昨年と比べて悪化している。(土砂が堆積している、民地が浸食)ポイントを変えた方がよい。	B	b	△		
		17.写真観測(親水景観)	7		親水景観は、上椎葉上流親水箇所 で台風などにより埋塞し景観の変化が見られるが、その他の地点では特に大きな変化はみられないことから「維持傾向」と評価される。 親水景観評価シートによると、「良い状態」と評価される。	B	a			B	a			
	(18)生物生態生育環境の変化	1.水質	40		出水時の流量規模別濁度は、椎原橋で至近3年間(令和2、4、5年度(令和3年度は調査未実施))の最大の傾き(流量に対する濁度の比率)を上回った。また、出水時の濁水長期化は、荒谷橋において至近3年間を上回る濁水長期化日数を示していることから、水質は「悪化傾向」と評価される。水質の濁水長期化の状態は目安の期間(2～3週間:10度以下)の範囲を上回っていることから「悪い状態」と評価される。	C	c	△	事務局案で了承する。	C	c	△		
		2.河床材料	47		河床材料は、各河川区間ともに大きな変化は見られないことから、方向性は「維持傾向」と評価される。 河床材料の状態は、漁協ヒアリングにおいて、「悪い状態」と評価される。	B	c		事務局案で了承する。	B	c			
		4.河道形状	49		河道形状は、至近3年間の変動幅より多く「改善傾向」と評価される。状態は、瀬と淵の合計数から「普通状態」と評価される。	A	b		瀬が浅くなっている。少なくなってきた印象がある。 (埋まっている)(深さの定義がない)通砂が続くと改善されるのか？ →委員から頂いた意見を基に一部評価を修正(方向性評価:A→B)	B	b			
		6.魚類	53		アユやカマツカの個体数については、地点によって違いはあるものの至近3年間(2021年度～2023年度(令和3年度～令和5年度))の変動幅の範囲内の地点が多いこと、アユの産卵床も至近3年間(2021年度～2023年度(令和3年度～令和5年度))の変動幅の範囲内であることから、総合的に「維持傾向」と評価される。状態は、指標種のアユ・カマツカの個体数割合から「普通状態」と評価される。	B	b		事務局案で了承する。	B	b			
		7.底生動物	60		地点により、種数及び個体数の変動や造網型指数の減少傾向が確認されたものの、全体でみると至近3年間と概ね同程度かやや増加傾向であることから、総合的に「維持傾向」と評価される。	B	－		事務局案で了承する。	B	－			
		8.付着藻類	62		2024年度(令和6年度)は、通砂後の濁水の影響により細胞数はほとんど増加していないが、出現種類数及びクロロフィルaは至近3年間の調査結果と同程度まで増殖していることから、「維持傾向」と評価される。漁協ヒアリングの結果、半数以上の漁協から「悪い状態」の回答を得たことから「悪い状態」と評価される。	B	c		事務局案で了承する。	B	c			
		9.河岸植生	63		ツルヨシ群落が大きく減少し、自然裸地が増加していることから「悪化傾向」と評価される。 状態は、漁協ヒアリングの結果、複数の漁協から「悪い状態」の回答を得たことから「悪い状態」と評価される。	C	c		事務局案で了承する。	C	c			
		29.水質、底生動物	65		方向性は、至近3年間(令和2年度～令和4年度)の変動幅の範囲内にあることから「維持傾向」と評価される。 状態は、平均点が3.83点であることから「良い状態」と評価される。	B	a		事務局案で了承する。	B	a			
		30.ヒアリング	67		ヒアリングは評価対象外(点数化しない)	－	－		事務局案で了承する。	－	－			
		6.漁獲量(内水面)	68		方向性は、至近3年間(令和3年度～令和5年度)と比較すると「悪化傾向」と評価される。 状態は、漁協ヒアリングの結果、複数の漁協から「悪い状態」の回答を得たことから「悪い状態」と評価される。	C	c		事務局案で了承する。	C	c			
	(19)瀬・淵の状況	4.河道形状	71		瀬・淵の数は、至近3年間の変動幅変動幅より多く、「改善傾向」と評価される。基準値(平成19年度～令和3年度の瀬と淵の合計箇所数の平均値)の範囲内であることから「普通状態」と評価される。	A	b	○	(18)4. と同じ評価 →委員から頂いた意見を基に一部評価を修正(方向性評価:A→B)	B	b	△		
	(20)橋脚の安定性	5.河道縦横断	73		状態は、橋脚部が洗掘されている東郷橋及び八重原橋では洗掘対策が講じられており、安全性に関して大きな問題はないと考えられることから「普通状態」と評価される。	－	b	△	事務局案で了承する。	－	b	△		
		18.写真観測 (河川状況、構造物基礎)	73		橋脚基礎の状況に大きな変化は見らず、安全性に関して大きな問題はない。	－	－		事務局案で了承する。	－	－			
	(21)護岸基礎部の安定性	5.河道縦横断	78		横断測量及び写真の結果、護岸基礎部の安定性は確保されていることから「普通状態」と評価される。	－	b	△	事務局案で了承する。	－	b	△		
		18.写真観測 (河川状況、構造物基礎)	78		護岸基礎部の状況に大きな変化は見らず、護岸基礎部の安定性は確保されている。	－	－		事務局案で了承する。	－	－			
	(22)取水の安定性	1.水質	84		水質の方向性は水道原水のpHは至近3年間の変動幅の範囲内、濁度は至近3年間の変動幅の範囲内であることから「維持傾向」と評価される。 状態は、設定した基準値の範囲内にあることから「良い状態」と評価される。濁度の状態は、設定した基準値を上回ることから「悪い状態」と評価される。	B	c	×	事務局案で了承する。 雨の後の調査は濁度が高くなる	B	c	△		
		5.河道縦横断	85	主	令和6年度は、基準年(平成23年度)と比較すると、「普通状態」と評価される。	－	c		R4.10月の台風以降はポンプアップしていない。 →委員から頂いた意見を基に一部評価を修正(状態評価:c→b)	－	b			
		24.写真観測 (取水口堆砂状況)	85		取水口付近の状況に大きな変化は見られない。	－	－		事務局案で了承する。	－	－			
	(23)治水安全度	5.河道縦横断	88		横断測量及び写真観測の結果、護岸基礎部の安定性は確保されていることから「普通状態」と評価される。	－	b	△	事務局案で了承する。	－	b	△		
		18.写真観測 (河川状況、構造物基礎)	95		河川、構造物基礎等の状況は、令和5年度と比較して大きな変化は見られない。	－	－		調査地点としては、大きな変化が見られなくても悪い場所もある。	－	－			
	(24)氾濫発生時の被害状況	31.水害統計資料	112		浸水被害戸数を至近3年間と比較すると「維持傾向」と評価される。状態は令和6年度(台風10号)は、過去に12戸の浸水被害が発生した平成19年の流量規模より大規模の流入量であるが、浸水被害戸数が減少しているため「良い状態」と評価される。	B	a	○	水害が少ないのは、転出したからではないか。 いつでも危険な状態での認識である。水没エリアで評価した方がよいのでは。 →委員から頂いた意見を基に一部評価を修正(状態評価:a→b)	B	b	△		
		20.写真観測 (洪水時流下状況)	113		台風10号洪水時に一部流木の漂着が確認された。	－	－		事務局案で了承する。家屋だけでなく、農地も被害を受けている。	－	－			

着色凡例	
	:治水面(防災面)
	:利水面(水利用面)
	:環境面

個別評価凡例	
【方向性】A:改善傾向、B:維持傾向、C:悪化傾向	
【状 態】a:良い状態、b:普通状態、c:悪い状態	

評価凡例	
○:問題なく良いレベル	
△:普通のレベル	
×:問題があり悪いレベル	

※1 ワーキングでの個別評価を、評価・改善委員会での事務局案とする。

※2 ワーキングでの問題・課題に対する評価を、評価・改善委員会での事務局案とする。

その他意見：全体の評価としては違うのではないかな。濁りもあるし堆積土砂が除去できていないのではないかな。



問題・課題評価シート【河口・海岸領域】

領域	総合土砂管理上の 問題・課題	モニタリング項目	説明 主 従 関 頁	ワーキング時点での事務局案				ワーキンググループの評価					
				評価結果の概要	個別評価			総合 評価	事務局案に対する意見等	個別評価※1		評価 ※2	
					方向性	状態				方向性	状態		
河口・ 海岸 領域	(25) 生物生息生育環境の 変化	1. 水質（海域：出水時）	3	概ね至近3年間の変動幅を上回ったことから「悪化傾向」と評価される。状態は、日向市漁協へのヒアリングにおいて「悪い状態」の回答を得た。	C	c	△	事務局案で了承する。	C	c	△		
		3. 底質（海域：出水時）	7	至近3年間の変動幅の範囲内にあることから「維持傾向」と評価される。化学分析結果が全項目において汚れの目安以下であることから「良い状態」と評価される。	B	a		事務局案で了承する。	B	a			
		6. 漁獲量（海域）	9	至近3年間の変動幅の範囲内であることから、「維持傾向」と評価される。状態は日向市漁協へのヒアリングにおいて「悪い状態」の回答を得た。	B	c		事務局案で了承する。 鮎とウナギは不漁。鮎は放流しても漁獲量が少ない。ヒラメも同様であり、土砂が底に溜まり固くなることで、ヒラメが育ちにくい環境となっていると考えられる。	B	c			
		6. 漁獲量（内水面）	9	至近3年間の変動幅を下回ることから「悪化傾向」と評価される。状態は、漁協ヒアリングの結果、一部の漁協から「悪い状態」の回答を得た。（参考：方向性は令和4年度評価）	C	c		事務局案で了承する。	B	c			
		7. 底生動物（海域：出水時）	11	概ね至近3年間の調査結果の変動幅の範囲内にあることから「維持傾向」と評価される。	B	－		事務局案で了承する。	B	－			
		10. 藻場（海域）	13	至近3年間と比較して分布・密生範囲が拡大したことから、「改善傾向」と評価される。状態は、漁協ヒアリングの結果、日向市漁協から「普通状態」の回答を得た。	A	b		事務局案で了承する。 ヤツマタモク場の繁茂しているところで写真を撮影しており、繁茂している箇所の隣では、繁茂してない箇所も見受けられる。もう少し、広角で撮影するべきだと考えられる。	A	b			
	(26) 防災機能の維持	28. 航空写真（汀線比較）	21	至近3年間ならびに基準年と比較すると増加していることから「改善傾向」及び「良い状態」と評価される。（参考：令和2年度評価）	A	a	○	【河口・海岸領域目標】 水系一貫した土砂の適正管理による持続可能な河口・海岸領域の保全を目指す。	事務局案で了承する。	A	a	○	
	(27) 親水空間の確保	17. 写真観測（景観・親水）	23	令和5年度と比較して大きな変化は見られない。	－	－	○		事務局案で了承する。	－	－	○	
		28. 航空写真（汀線比較）	25	至近3年間及び基準年と比較すると増加していることから、「改善傾向」及び「良い状態」と評価される。（参考：令和2年度評価）	A	a		事務局案で了承する。	A	a			
	(28) 港湾施設の機能維持	25. 土砂除去量（河道・河口海岸）	28	状態は、基準年の変動幅を下回ることから「良い状態」と評価される。	－	a	○	河口・海岸領域評価：『△』	事務局案で了承する。 港内の一部では、水深が1m程度と浅くなっている箇所も見受けられる。	－	a	○	
	(29) 治水安全度	5. 河道縦横断	31	基準年と比較すると、「良い状態」と評価される。	－	a	○		事務局案で了承する。	－	a	○	
	(30) 船舶の航行（操業上）の 安全確保	5. 河道縦横断	36	確保率は96％であり、100％確保されていないことから「悪い状態」と評価される。	－	c	×	【評価コメント】 令和6年度は、水質(海域)、漁獲量(内水面)、ヒアリング（漁獲量・漁業の操業環境）、漂着物量(河道・河口海岸）に関して「悪化傾向」、また水質(海域)、河道縦横断、ヒアリング（漂着物量(河道・河口海岸）、船舶の航行（操業上）の安全確保、漁獲量(内水面、海域)、漁業の操業環境）に関して「悪い状態」の評価があったが、その他の項目は概ね「普通状態」が維持されていることから、河口・海岸領域は総合的に「△」と評価される。	事務局案で了承する。 事務局案で了承する。 海域の水深が浅くなっているので、調査方法・対策を検討して欲しい。 沖で、3～4m程度の水深しかないため、うねりを伴った1mくらいの波がある場合は、船が出せない。	－	c	×	
		25. 土砂除去量（河道・河口海岸）	37	状態は、基準年の変動幅を下回っていることから「良い状態」と評価される。	－	a			事務局案で了承する。 美々津浜と比較し、幸臨地区の方が、流木の漂流物が多いため、美々津浜の写真だけでなく、幸臨地区の写真も載せるべきである。	－	－		
		20. 写真観測（洪水時流下状況）	38	台風10号発生後、流木の海岸漂着はほぼ見られず、ヒアリングによって、「至近3年間と比べて流木の漂着の量は多かった」との回答を得た。	－	－			事務局案で了承する。	－	－		
		21. 写真観測（海域漂流状況）	39	台風10号発生後、流木の海岸漂着はほぼ見られず、ヒアリングによって、「至近3年間と比べて流木の漂着の量は多かった」との回答を得た。	－	－			事務局案で了承する。	－	－		
		22. 写真観測（海岸漂着状況）	39	台風10号発生後、流木の海岸漂着はほぼ見られず、ヒアリングによって、「至近3年間と比べて流木の漂着の量は多かった」との回答を得た。	－	－			事務局案で了承する。	－	－		
		26. 漂着物量（河道・河口海岸）	40	至近3年間の変動幅の変動幅を上回っているため「悪化傾向」と評価される。状態は、漁協ヒアリングの結果、「悪い状態」の回答を得た。	C	c			事務局案で了承する。	C	c		
		30. ヒアリング	41	日向市漁協へのヒアリングの結果、「悪化傾向」及び「悪い状態」の回答であった。	C	c			事務局案で了承する。	C	c		
	(31) 海岸環境の変化	22. 写真観測（海岸漂着状況）	44	台風10号発生後、流木の海岸漂着はほぼ見られず、ヒアリングによって、「至近3年間と比べて流木の漂着の量は多かった」との回答を得た。	－	－	×		事務局案で了承する。	－	－	×	
		26. 漂着物量（河道・河口海岸）	45	至近3年間の変動幅を上回っているため「悪化傾向」と評価される。状態は、日向市漁協へのヒアリングにおいて「悪い状態」の回答であった。	C	c			事務局案で了承する。	C	c		
	(32) 漁業の操業環境	26. 漂着物量（河道・河口海岸）	48	至近3年間の変動幅を上回っているため「悪化傾向」と評価される。状態は、漁協ヒアリングの結果、日向市漁協から「悪い状態」の回答を得た。	C	c	×		事務局案で了承する。	C	c	×	
		22. 写真観測（海岸漂着状況）	49	台風6号発生後、流木の海岸漂着はほぼ見られず、ヒアリングによって、「至近3年間と比べて流木の漂着の量は多かった」との回答を得た。	－	－			事務局案で了承する。	－	－		
		20. 写真観測（洪水時流下状況）	50	台風6号発生後、流木の海岸漂着はほぼ見られず、ヒアリングによって、「至近3年間と比べて流木の漂着の量は多かった」との回答を得た。	－	－			事務局案で了承する。	－	－		
		6. 漁獲量（海域）	51	至近3年間の変動幅の範囲内であることから、「維持傾向」と評価される。状態は、漁協ヒアリングにおいて「悪い状態」の回答を得た。	B	c			事務局案で了承する。	B	c		
		30. ヒアリング	52	漁協ヒアリングの結果「悪化傾向」及び「悪い状態」の回答を得た。	C	c			事務局案で了承する。	C	c		
	(33) 氾濫発生時の被害状況	31. 水害統計資料	54	浸水被害戸数を至近3年間と比較すると「維持傾向」と評価される。状態は令和6年度（台風10号）は、過去に12戸の浸水被害が発生した平成19年の流量規模より大規模の流入量であるが、浸水被害戸数が減少しているため「良い状態」と評価される。	B	a	○		事務局案で了承する。	B	a	○	
		20. 写真観測（洪水時流下状況）	55	台風6号発生後、流木の海岸漂着はほぼ見られず、ヒアリングによって、「至近3年間と比べて流木の漂着の量は多かった」との回答を得た。	－	－			事務局案で了承する。	－	－		

着色凡例	
	：治水面（防災面）
	：利水面（水利利用面）
	：環境面

個別評価凡例	
【方向性】 A：改善傾向、 B：維持傾向、 C：悪化傾向	
【状態】 a：良い状態、 b：普通状態、 c：悪い状態	

評価凡例	
○：問題なく良いレベル	
△：普通のレベル	
×：問題があり悪いレベル	

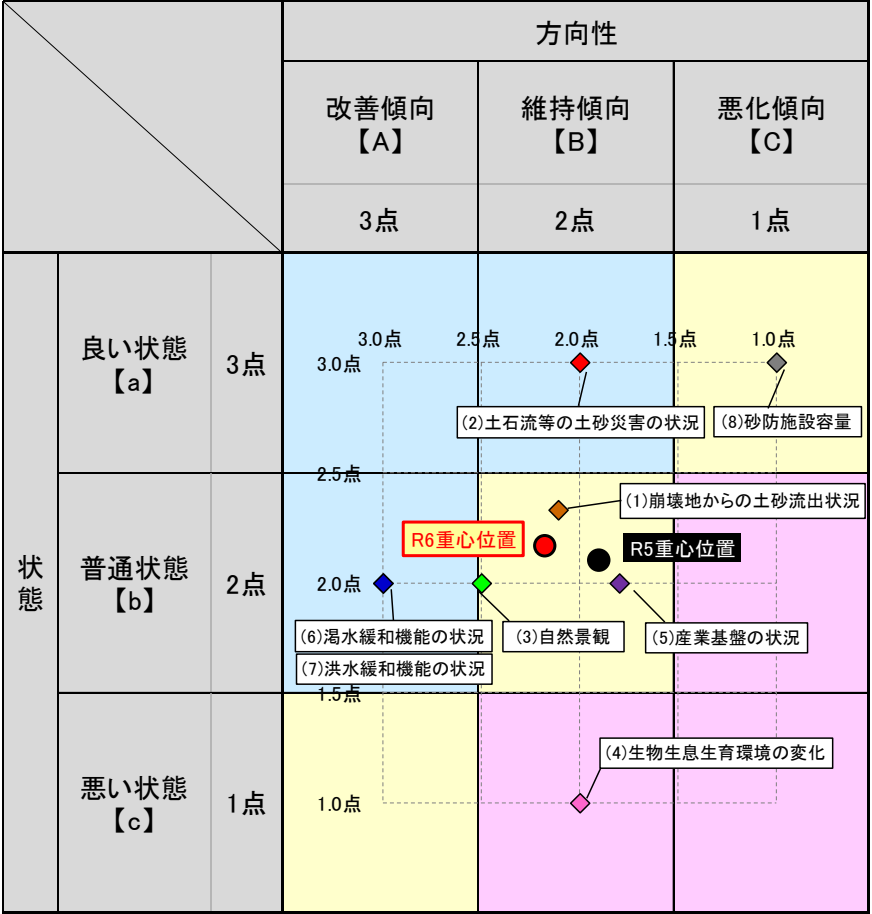
※1 ワーキングでの個別評価を、評価・改善委員会での事務局案とする。  
※2 ワーキングでの問題・課題に対する評価を、評価・改善委員会での事務局案とする。

# 「耳川通信簿」 耳川流域全体（令和6年度）

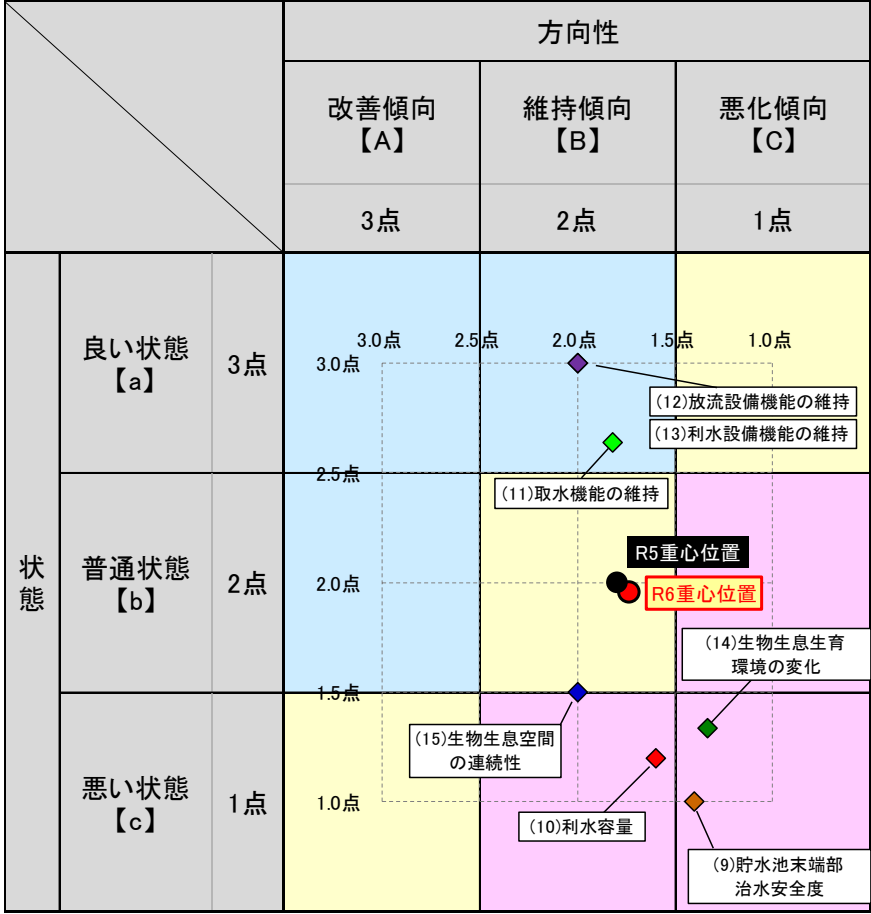
「耳川通信簿」 耳川流域全体（令和6年度）

資料	領域	総合土砂管理上の問題・課題	R6		R5		R4		事務局評価	領域の評価				評価・改善委員会の評価
			評価	得点	評価	得点	評価	得点		領域の評価				
資料④-1	山地領域	(1)崩壊地からの土砂流出状況	△	1	△	1	×	0	【山地領域目標】 森林保全や治山・砂防の推進により、土砂・流木の流出制御を目指す。  【評価コメント】 山地領域の得点率は63％であり、得点率の評価から令和6年度は総合的に「良いレベル○」と評価される。令和4年度及び令和5年度を上回る得点率である。 総合土砂管理上の問題・課題では、(4)生物生息生育環境の変化の評価が「悪いレベル×」であることから、今後も改善に向けて重点的な取り組みが必要と考えられる。	山地領域	R6	R5	R4	○△×
		(2)土石流等の土砂災害の発生状況	○	2	○	2	△	1		問題・課題の数	8	8	8	
		(3)自然景観	△	1	△	1	△	1		配点	16	16	16	
		(4)生物生息生育環境の変化	×	0	×	0	△	1		得点	10	8	7	
		(5)産業基盤の状況	△	1	△	1	△	1		得点率	63%	50%	44%	
		(6)渇水緩和機能の状況	○	2	△	1	×	0		得点率の評価	○	△	△	
		(7)洪水緩和機能の状況	○	2	△	1	△	1						
		(8)砂防施設容量	△	1	△	1	○	2						
資料④-2	ダム領域	(9)貯水池末端部治水安全度	×	0	×	0	×	0	【ダム領域目標】 土砂移動の連続性を回復させ、ダムの適切な運用・管理により川の機能の再生を目指す。  【評価コメント】 ダム領域の得点率は43％であり、得点率の評価から令和6年度は総合的に「普通レベル△」と評価される。令和4年度、令和5年度と同じ得点率である。 総合土砂管理上の問題・課題では、(9)貯水池末端部治水安全度（10）利水容量及び（14）生物生息生育環境の変化、（15）生物生息空間の連続性の評価が「悪いレベル×」であることから、今後も改善に向けて重点的な取り組みが必要と考えられる。	ダム領域	R6	R5	R4	○△×
		(10)利水容量	×	0	×	0	△	1		問題・課題の数	7	7	7	
		(11)取水機能の維持	○	2	○	2	△	1		配点	14	14	14	
		(12)放流設備機能の維持	○	2	○	2	○	2		得点	6	6	6	
		(13)利水設備機能の維持	○	2	○	2	○	2		得点率	43%	43%	43%	
		(14)生物生息生育環境の変化	×	0	×	0	×	0		得点率の評価	△	△	△	
		(15)生物生息空間の連続性	×	0	×	0	×	0						
資料④-3	河道領域	(16)付着藻類の変化	×	0	×	0	×	0	【河道領域目標】 適切な河川管理により、安全安心と生物多様性を実現し、人と川が親しめるよう、川の機能の再生を目指す。  【評価コメント】 河道領域の得点率は44％であり、得点率の評価から令和6年度は総合的に「普通レベル△」と評価される。令和5年度と同じ得点率である。 総合土砂管理上の問題・課題では、（16）付着藻類の変化が「悪いレベル×」であることから、今後も改善に向けて重点的な取り組みが必要と考えられる。	河道領域	R6	R5	R4	○△×
		(17)河川景観の変化	△	1	△	1	△	1		問題・課題の数	9	9	9	
		(18)生物生息生育環境の変化	△	1	×	0	×	0		配点	18	18	18	
		(19)瀬・淵の状況	△	1	○	2	×	0		得点	8	9	3	
		(20)橋脚の安定性	△	1	△	1	△	1		得点率	44%	50%	17%	
		(21)護岸基礎部の安定性	△	1	△	1	△	1		得点率の評価	△	△	×	
		(22)取水の安定性	△	1	△	1	×	0						
		(23)治水安全度	△	1	△	1	×	0						
		(24)氾濫発生時の被害状況	△	1	○	2	×	0						
資料④-4	河口・海岸領域	(25)生物生息生育環境の変化	△	1	△	1	△	1	【河口・海岸領域目標】 水系一貫した土砂の適正管理による持続可能な河口・海岸領域の保全を目指す。  【評価コメント】 河道領域の得点率は61％であり、得点率の評価から令和6年度は総合的に「良いレベル○」と評価される。令和4年度及び令和5年度を上回る得点率である。 総合土砂管理上の問題・課題では、（30）船舶の航行（操業上）の安全確保、（31）海岸環境の変化、（32）漁業の操業環境が「悪いレベル×」であることから、今後も改善に向けて重点的な取り組みが必要と考えられる。	河口・海岸領域	R6	R5	R4	○△×
		(26)防災機能の維持	○	2	○	2	○	2		問題・課題の数	9	9	9	
		(27)親水空間の確保	○	2	○	2	○	2		配点	18	18	18	
		(28)港湾施設の機能維持	○	2	×	0	×	0		得点	11	9	7	
		(29)治水安全度	○	2	○	2	○	2		得点率	61%	50%	39%	
		(30)船舶の航行（操業上）の安全確保	×	0	×	0	×	0		得点率の評価	○	△	×	
		(31)海岸環境の変化	×	0	×	0	×	0						
		(32)漁業の操業環境	×	0	×	0	×	0						
		(33)氾濫発生時の被害状況	○	2	○	2	×	0						
		総合評価			【耳川水系目標】耳川をいい川にする  【評価コメント】 令和6年度は、耳川水系全体としての得点率は令和4年度及び令和5年度を上回っているが、ダム領域と河道領域が普通レベルであることから総合的に普通のレベル「△」と評価される。 一方で、近年は上流域や支川から大量の土砂が流入しており、また、関係機関へのヒアリングでは生物の生息生育環境等が悪い、との回答が多い状況である。 今後は、本計画の目標である”森林とダムと川と海のつながり”をより強く意識し、ワーキングにおいては、他領域の課題も共有した上で各領域ごとの評価を行うなど、モニタリング・評価の項目、手法等の見直しについて、行動計画の見直しも含め検討していく必要がある。							耳川水系	R6	
問題・課題の数	33				33	33								
配点	66				66	66								
得点	35				32	23								
得点率	53%				48%	35%								
得点率の評価	△				△	×								
	：治水面（防災面） ：利水面（水利用面） ：環境面													
課題評価の凡例 ○：問題なく良いレベル △：普通のレベル ×：問題があり悪いレベル														

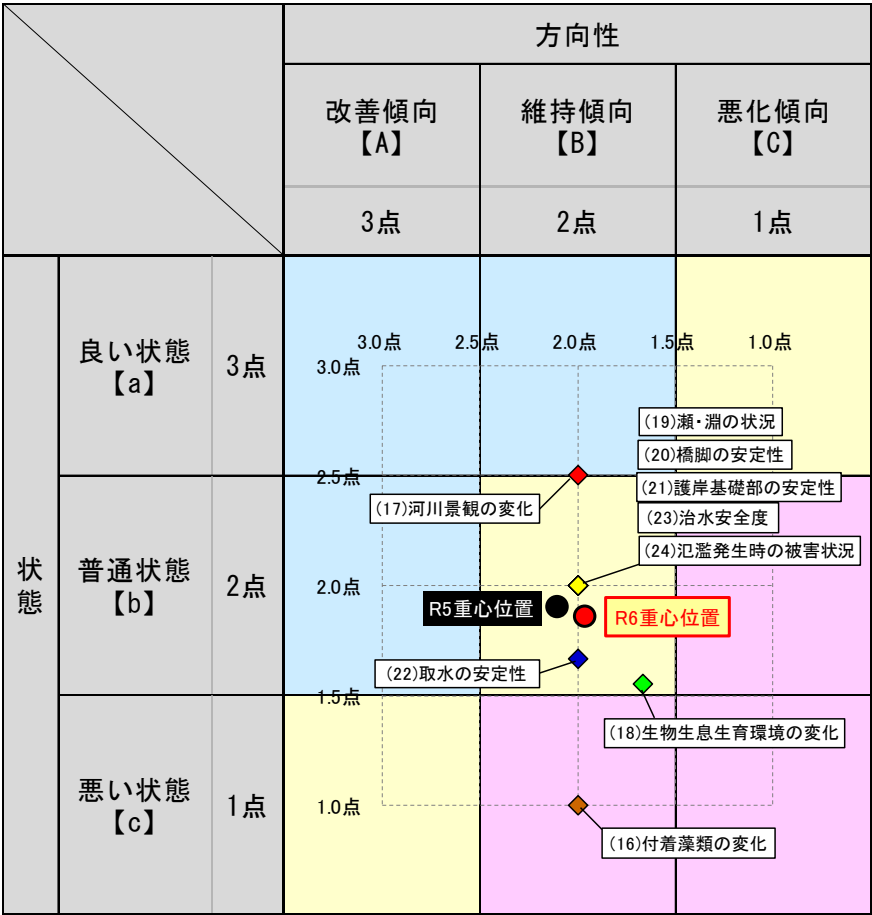
山地領域の総合評価（令和6年度）



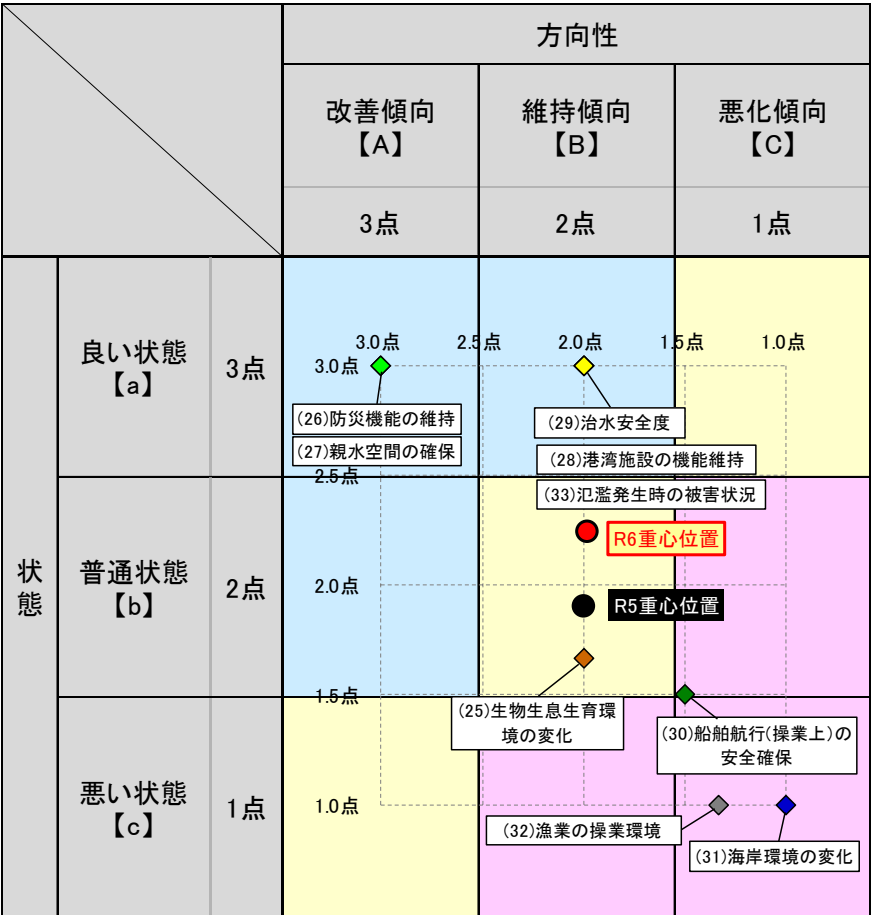
ダム領域の総合評価（令和6年度）



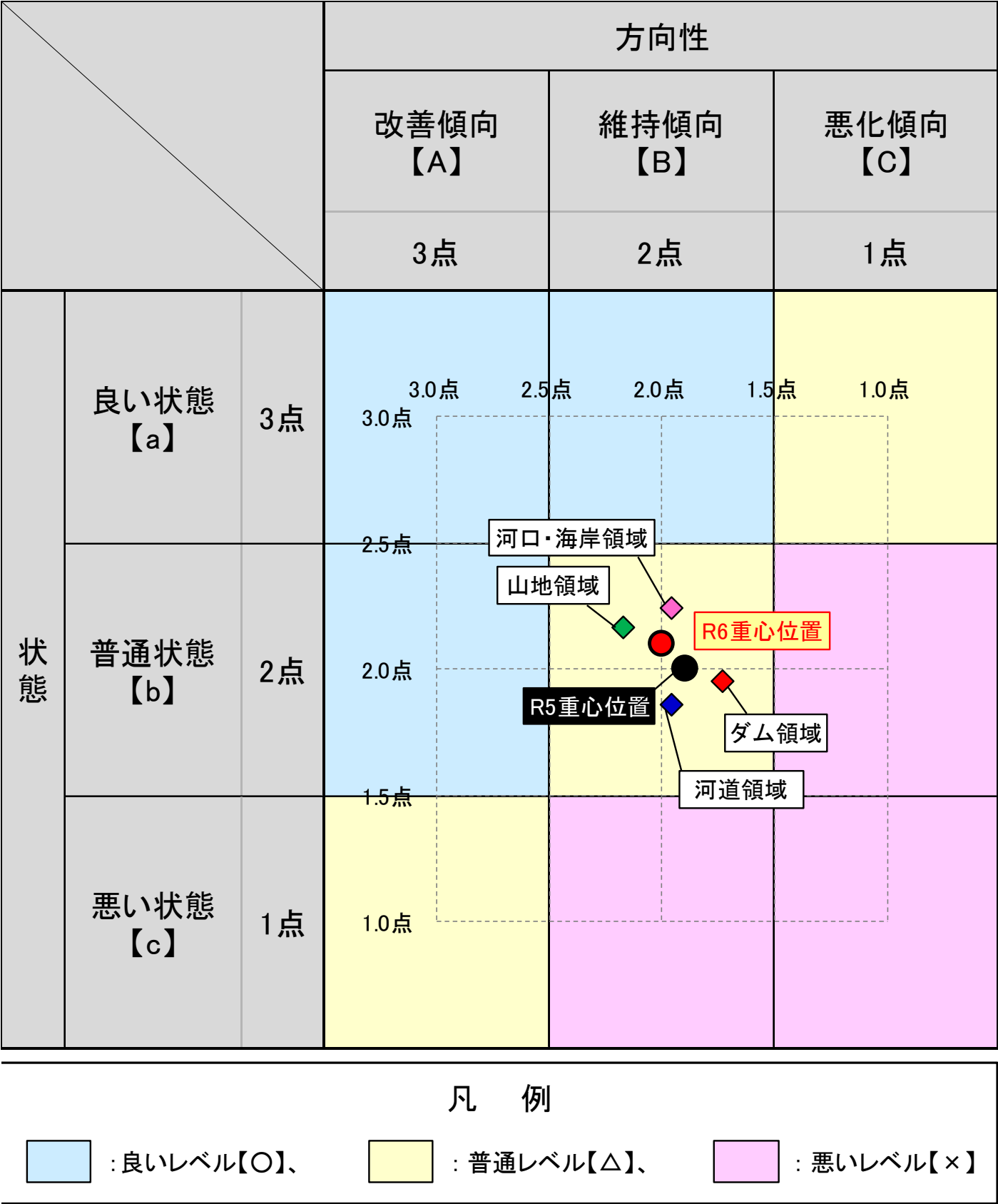
河道領域の総合評価（令和6年度）



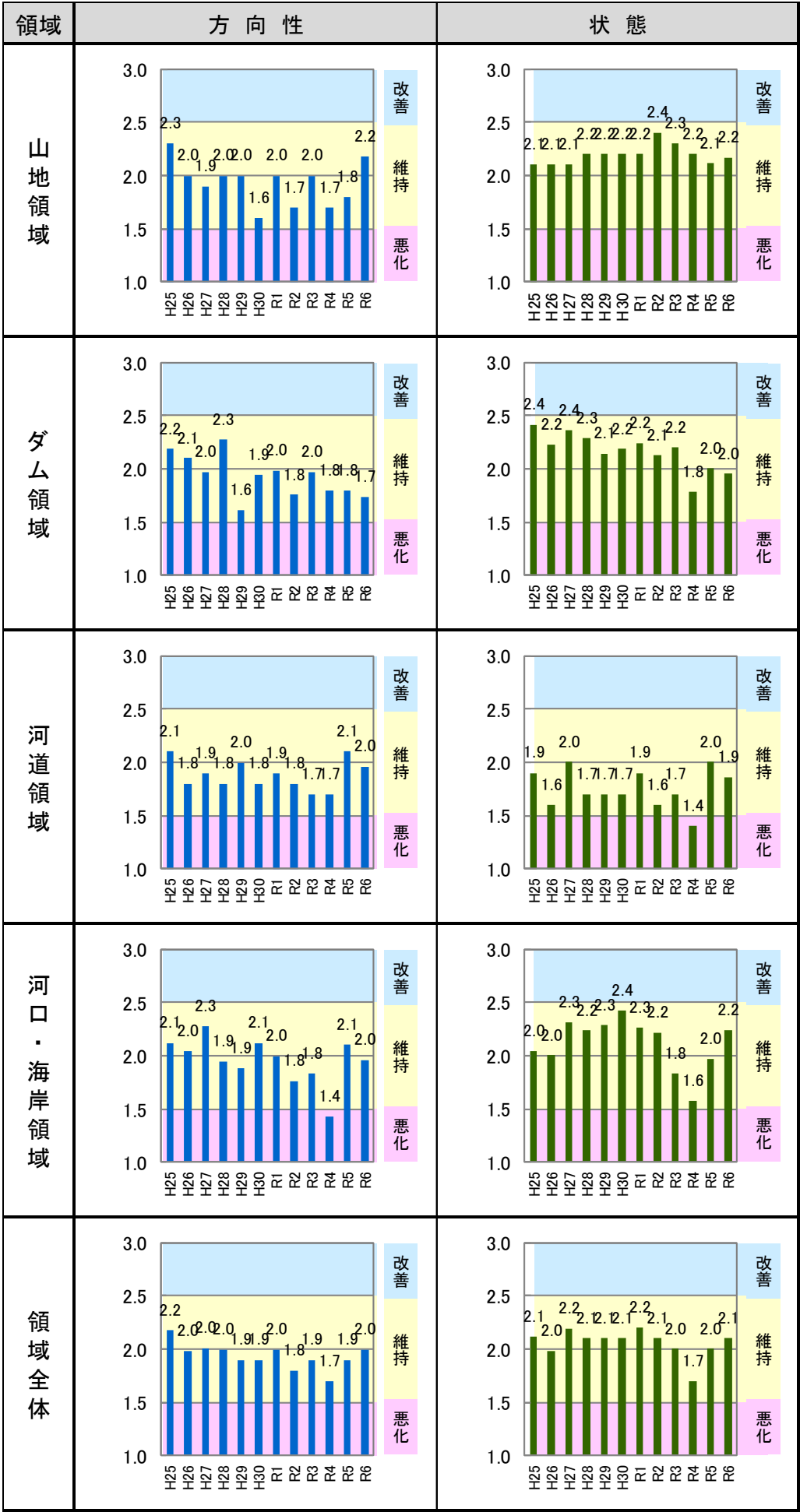
河口・海岸領域の総合評価（令和6年度）



耳川流域全体の総合評価（令和6年度）



注1) グラフは領域ごとの評価結果をプロットしている。  
注2) 重心位置は、これらの評価結果の総合的な位置付けを示したものである。



注) 評価手法を改良しているモニタリング項目があるため、正確に経年変化を捉えていないケースがある。